

「もっと足を運んで」

機会少なく募る不満

危険区域 当局に怒号飛ぶ会場も 指定説明会

気仙沼市が16会場で開催した災害危険区域指定の説明会で、行政に対する住民の不満が噴出した。住民不在で進む堤防計画、津波シミュレーションの信頼性、危険区域内の土地買い取りについての回答の曖昧さ、それに防災集団移転と個別移転の格差もあり、一部会場では怒号が飛んだ。議論や説明の機会が少ないことがそもそもの原因で、意見が反映されずに重要な計画が次々と決まっていることに住民は危機感を抱いている。



階上地区の災害危険区域説明会

1日夜に階上中で開「階上は漁業と観光で開かれた説明会には、住民約250人が出席。災害危険区域指定によって沿岸の居住が制限されるのに、標高9・8級の堤防を整備すること疑問視し、

「被災して住み慣れた地域を離れることは同じなのに、集団移転には一軒当たり300万円もの税金を投じ、自力再建には支援がない。何とか助けてほしい」と訴え、がけ地近接等危険住宅をさかのぼって適用するよう強く求めた。

「東日本大震災で9級の津波が襲来したのに、5級の堤防で浸水が、住民は「市はもっと

「東日本大震災で9級の津波が襲来したのに、5級の堤防で浸水が、住民は「市はもっと

市民が注目している。7時(9日は午前9時から午後5時)まで。市民会館で災害危険区域指定に関する個別相談が開かれる。時間は午後1時から同

市民が注目している。7時(9日は午前9時から午後5時)まで。市民会館で災害危険区域指定に関する個別相談が開かれる。時間は午後1時から同

市民が注目している。7時(9日は午前9時から午後5時)まで。市民会館で災害危険区域指定に関する個別相談が開かれる。時間は午後1時から同

市民が注目している。7時(9日は午前9時から午後5時)まで。市民会館で災害危険区域指定に関する個別相談が開かれる。時間は午後1時から同